

第2部 基礎語彙

語彙の配列およびその体裁は、比較の便宜のため、栗林(1989)に従った。1990年の人口統計によると、ホロンバイルのウールト人は169戸、751人であるという(燕京、清華、北大1950年暑期内蒙古工作調査團編1997;p.289)。本調査は日本の留学生を対照に行ったものである。条件のよいインフォーマントによる中国側の言語調査が公刊されることを望む。

左から「蒙古文語」、「バヤラ氏のウールト方言」、「漢語」、「日本語」となっている。

〈 a 〉

ab-	abax	「拿」	取る
abu	a:b	「父親」	お父さん
* バヤラ氏の父親はadʒa:(文語aʒiya)を使う			
ači-	atfix	「装」	(車などに荷物を)積む
ačiya(n)	atʃa:	「貨物」	荷物
* gandzag(文語yanjuʒa(n))(馬の背の)荷駄			
adali	ɛdl	「相同」	同じ
adqu	atag	「一把」	一握り
aduʒu(n)	ado:	「馬」	ウマ
aduʒusu(n)	adgo:s	「牲畜」	家畜
* 聞き分けの悪い家畜等を罵るときにも使用する			
ayta	axt	「驢馬」	去勢ウマ
ayudam	o:dom	「寛大」	広大な
ayula(n)	o:l	「山」	山
ayulʒa-	o:ldzax	「見面、遇見」	会う、出会う